

令和4年度 府中市立府中第五中学校 学校経営報告

府中市立府中第五中学校

校長 伊藤 淳

1 教育目標

持続可能な社会の担い手として、多様で質的に豊かな成長につながる新たな価値を生み出していくことができる人を育成するため、次の通り学校教育目標及び生徒に身に付けさせたい資質・能力を設定する。

校訓「自己発見」

- 深く考え、志高く生きる人になる
- 自他を敬愛し、心豊かな人になる
- 健やかで、社会に貢献できる人になる

学校教育目標 『大人になる練習をし、夢をかなえる土台を築く生徒の育成』

- 疑問をもち、考え抜く生徒（「課題対応力」）
- 思いやりのある心と行動力をもつ生徒（「自己管理力・人間関係形成力」）
- 一歩前に踏み出し、粘り強く取り組む生徒（「社会形成力・社会貢献力」）

2 中期的目標と方策

- (1) 「個別最適な学び」「協働的な学び」を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を日々行う意識を持ち、確かな学力を育成する。
- (2) 生徒一人ひとりを大切にすきめ細かな指導を継続し、自己肯定感、自己有用感を高める。
- (3) 生徒中心の学校行事等の計画と運営、体験的な活動の充実を図り、生徒の主体性を育成する。
- (4) 人権教育を推進し、「誰もが」「安心して」「自分の良さを発揮」できる学校づくりを推進する。
- (5) コミュニティ・スクールの円滑な推進により、家庭・地域・近隣小学校との連携を図り、共に学び、共に育つ学校づくりを推進する。
- (6) 生徒と教職員、保護者と教職員、地域と教職員、教職員同士の信頼関係を深め、活力ある学校づくりを推進する。

3 目指す学校像・生徒像・教師像

学校の役割は、未来への人材づくりと考え、生徒たちの多様な力と才能を引き伸ばし、社会に有用な人材を育てることにある。教職員・保護者・地域が互いに協力し信頼し合い、義務教育9年間を終えるまでの3年間で、大人になる練習をする中で夢をかなえる力を育む学校を目指す。

(1) 目指す学校像

- 大人になる練習し、夢をかなえる力を育む学校
- 一人ひとりが良さを発揮でき、笑顔があふれる学校
- 「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」を育むために積極的に教育活動の改善・充実を図る学校
- 保護者や地域から信頼され、安心して生徒を通わせることができる学校

(2) 目指す生徒像

- 疑問を持ち、考え抜く中で新しい価値を生み出す生徒
- 思いやりの心を持ち、行動する生徒
- 失敗を恐れず挑戦し、粘り強く自らの力をより高く伸ばそうと努力する生徒
- 主体的に考動し、自己の役割を果たす、折り合いをつけて前に進むなど、チームで働く生徒

(3) 目指す教師像

- 大人として率先垂範する教師
- 生徒の学びを支援できる授業改善を積極的に進める教師
- 認め励まし、一人一人の望ましい自己実現や集団への適応を温かく支援できる教師
- 教育公務員としてサービスの厳正をし、組織の一員として強い自覚に基づいて職務を遂行する教師

(4) 五中校区小中9年間で育てたい児童・生徒像

- 自ら学び、考えることができる児童・生徒
- 思いやりの心をもった、心身ともに健康な児童・生徒

4 今年度の取り組み目標

(1) 教育活動の目標と方策

全ての教育活動において新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、コロナの状況に左右されない企画・実施を行い、生徒の「主体性」を育む。また、教職員が学校経営方針を共通認識して学校運営に参画することを目指し、「信頼」「温もり」「笑顔」をキーワードに、生徒・教職員の一人一人がよりよい府中第五中学校を創る担い手となる教育活動を展開する。

(2) 今年度の重点目標

ア 「確かな学力」・・・「疑問をもち、考え抜く力」の育成

- ①言語活動の充実及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- ②教科等や生徒会活動にESD(SDGs)の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメント
- ③一人1台端末やICT等を活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進

【数値目標】

授業評価で以下のA～Eの項目において肯定的評価80%以上、Eの項目において肯定的評価70%以上を目指す。

- A 「ねらい」や「まとめ」が理解できましたか。
[肯定的評価 生徒93.4% 教員88.2%]
- B 学習を振り返る場面はありましたか。
[肯定的評価 生徒91.1% 教員52.4%]
- C 自分で考える場面があったと思いますか。
[肯定的評価 生徒94.4% 教員88.9%]
- D 考えたことを表現(発表)したり、伝え合う場面はありましたか。
[肯定的評価 生徒85.0% 教員61.9%]
- E 授業でタブレットの活用は行われていますか。
[肯定的評価 生徒63.5% 教員68.4%]

「学習を振り返る場面」の設定については、生徒と教員の差が大きくなった。生徒の主体的な学びにつながる振り返りを教員が一層意識して意図的に設定すること、方法について再検討をしていく必要がある。「考えたことを表現(発表)したり、伝え合う場面」についても同様であり、インプットされたことを自分の言葉でアウトプットすることで、学習内容の理解や定着が図られる。一人一台端末等ICTの効果的な活用を図っていく必要がある。「授業でのタブレットの活

用」は目標値を生徒教員ともに下回った。活用については全体的に推進しているが、教科によって大きな差が見られた。今後は、ICT支援員の積極的な活用と、校内で積極的に推進している教員をモデルにして、各教科で有効な場面での活用が図られるように学校全体で組織的に取り組んでいく。

イ 「豊かな心」・・・「思いやりのある心と行動力」の育成

- ①暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進
- ②豊かな心を育む道德教育の充実
- ③勤労体験やボランティア活動等の推進

【数値目標】

学校評価で以下のA～Dの項目において肯定的評価85%以上を目指す。

A 学校や学級に行くのが毎日楽しみですか。

[肯定的評価 生徒81.3% 保護者91.4% 教員100%]

B 道德の授業は自分自身の心の成長に役立っていますか。

[肯定的評価 生徒87.6% 保護者70.3% 教員85.7%]

C いじめや暴力のない学校にするよう意識していますか。

[肯定的評価 生徒94.9% 保護者73.4% 教員95.2%]

D 将来の進路や生き方について考えていますか。

[肯定的評価 生徒71.4% 保護者66.4% 教員85.7%]

「学校や学級に行くのが毎日楽しみ」は生徒の数値が目標値を下回った。自己肯定感や自己有効感を高める自己指導能力を教科、学級活動をはじめとして教育活動全体で推進していく。またこのことは「将来の進路や生き方について考えていますか」という項目とも関連すると考え、人と関わることから学ぶ体験活動等を今年以上に充実させ、将来につながる経験や知識を生徒自身の中に蓄積させていく。保護者には、道德やキャリア教育など学校での取組を学校だよりや学年だより、タイムライン等で積極的に紹介していく。

ウ 「健やかな体」・・・「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成

- ①主体的に取り組める行事や委員会活動の企画と運営
- ②問題解決的な学習や体験活動の充実
- ③基本的な生活習慣、自分も周りも守る健康と安全についての理解と実践力
- ④相談機能の充実と関係機関との連携の推進

【数値目標】

学校評価で以下のA～Gの項目において肯定的評価85%以上を目指す。

A 学級活動や委員会動、学校行事に積極的に取り組みましたか。

[肯定的評価 生徒88.1% 保護者92.2% 教員95.2%]

B 自らすすんで挨拶していますか。

[肯定的評価 生徒91.2% 保護者84.4% 教員66.7%]

C 人の話を聞く態度ができていますか。

[肯定的評価 生徒94.0% 保護者85.2% 教員85.7%]

D いつも善悪の判断をつけて行動していますか。

[肯定的評価 生徒91.2% 保護者93.8% 教員95.2%]

E 清掃にまじめに取り組んでいますか。

[肯定的評価 生徒97.4% 保護者93.0% 教員100%]

F 家庭で保護者と、スマホやパソコンなどの安全な使用やルールをしっかりと話し合っ

決めていますか。〔肯定的評価生徒79.1% 保護者83.6% ※教員質問項目なし〕

G 学校はあなたの悩みや相談に適切に応じてくれますか。

〔肯定的評価88.1% 保護者84.4% 教員95.2%〕

概ね目標の数値を上回っていた。特に「清掃」については、生徒・教員ともに高い数値を示しており、きれいな学校づくりを意識して実践していることがわかる。「自らすすんで挨拶」については、挨拶は返せるが、自らすすんで行うという点で、教員との差が出ている。今後は、挨拶を行う意味と大切さをさまざまな場面で伝えるとともに、挨拶ができているときは機を逃さずに褒めることを学校全体で推進する。また、近隣の小学校とも連携を図り、挨拶が響く中学校区づくりを目指す。

エ 「学校力」…「連携による学校力」の向上

- ①新型コロナウイルスの感染症予防策を講じ、状況に左右されない企画・実施
- ②育てたい児童・生徒像を具現化する小中連携の推進
- ③コミュニティ・スクールの機能を生かした地域連携の推進
- ④特別支援教室拠点校として特別支援教育の一層の充実
- ⑤心に残る創立60周年事業の実施

【数値目標】

- ①教育委員会の指示や通達に従いながら、実施形態を工夫するなど実施率100%を目指す。
 - ②年度末中学校区での教員のアンケートを実施し、肯定的評価80%以上を目指す。
 - ③学校運営協議会主催の取組について、少なくとも2つ以上の実施を目指す。
 - ④特別支援教育に関わる研修を年2回以上実施する。
 - ⑤創立60周年記念としての運動会・合唱祭、記念式典の3つを実施する。また、生徒を中心とした記念事業を1つ企画・実施する。
-
- ①予定していた行事等について市教育委員会の指示ものと感染症対策を講じながら実施を行うことができた。
 - ②第3回以降に実施
 - ③今年度は2つの分科会(学校支援部、学校防災部)を立ち上げた。
学校支援部は夏季休業日に地域未来塾を開設。14のボランティア活動(延べ300人以上の生徒が参加)。学校防災部は9月に教員向け防災ツアーを実施。校内の防災用具や施設の確認等を実施。
 - ④校内研修に位置付け、5月はけやきの森学園特別支援教育コーディネーターを、11月はNPO法人EDGE(エッジ)会長を講師に招いて研修会を実施した。
 - ⑤創立60周年記念事業として、5月に運動会、10月に合唱祭、11月に記念式典を実施。記念動画の撮影を全校生徒で行った。

【学習指導】

ア 各教科

- ①授業では「ねらい」を示し、知識・技能の習得、思考・判断力・表現力の育成、定着状況を確認する「まとめ」、自己の調整に生かす「振り返り」の時間の設定を通して指導と評価の一体化を推進する。
- ②「見方・考え方」を働かせながら学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養を図る。

- ③保護者と連携しながら家庭学習の習慣の確立を図る。
- ④これまでの教育実践とICTのベストミックスを図りながら個別最適な学び、協働的な学びを推進する。
- ⑤習熟度別少人数指導の工夫・改善を進め、英語及び理数科教育の充実を図り、論理的思考の育成を目指す。
- ⑥体力テストの結果等を生徒各自が課題を分析して把握するなど、保健体育科を中心に、生涯にわたって計画的・継続的に、体力・健康づくりを行うことができる力を育成する。
- ⑦各教科で身に付けた資質・能力を発揮させる場として、第2学年の希望する生徒に「東京都統計グラフコンクール」に取り組ませる。

「ねらい」「まとめ」「振り返り」の生徒肯定的評価は概ね80%を越えていた。次年度は、全教科で「振り返り」を重点に、主体的に取り組む態度の向上を一層図る。家庭学習については、生徒・保護者ともに肯定的評価が60%台であった。年度初めに「家庭学習の仕方」のガイダンスを行うとともに、タブレット端末の活用とその他の学習方法を提示し、自ら学習する習慣を身に付けさせる。英語及び数学では指導する教員のスキル等もあり、学習者デジタル教科書を十分に活用することができなかった。次年度は、「使う」から「活用する」し、ICTのベストミックスを一層推進する。体力テストのデジタル化を推進したことで、自己の体力を視覚的に捉え、体力向上に向けて動画を参考に具体的な運動を実践することができた。「東京都統計グラフコンクール」参加の呼びかけを行った。今後も継続して働きかけをして応募生徒を増やしていくことが課題。

イ 道徳科

- ①道徳科の授業及び教育活動全体において、よりよく生きる力の基盤となる道徳性を育てる。
- ②生徒と教師がともに考え、語ることを通して、生徒自らが成長を実感でき、課題や目標へとつながる「考え、議論する道徳」を展開する。
- ③生徒自身の生活における様々な場面において、よりよく生きようとする立場から主体的な判断に基づき、適切に実践する意欲と態度を育む。
- ④教材や発問などの工夫を通して、生徒自身が道徳的価値の自覚を深めることができる指導を目指す。
- ⑤全学年でローテーション道徳の授業を取り入れ、全教員が生徒の授業に当たる指導体制を組織することで生徒の道徳性を高める。
- ⑥道徳科の教科書を中心に教材の工夫や、問題解決的な学習や体験的な学習など、指導方法の工夫を図るとともに、人権尊重・生命尊重に関する指導、いじめ防止に関する授業を計画的に実施する。
- ⑦道徳教育推進教師を中心に、教育活動の具現化を図るためのカリキュラム・マネジメントを行う。

道徳に関する肯定的評価が前期から後期にかけて向上した。道徳教育推進教師を中心に各学年の道徳科担当と連携を図って計画的に実施した。特に、全学年でローテーション道徳を実施したことで、教員の教材や発問の工夫等授業力も向上した。今後は、指導方法や発問方法の工夫を図りながら、外部の人材や体験的な学習等を取り入れ、生徒の道徳性を一層高めていく。

ウ 総合的な学習の時間

- ①教科横断的な指導の充実を図ることを通して探究的な見方・考え方を育成し、よりよく課題を解決し、主体的・協働的に自己の生き方を考えていくための資質・能力や積極的に社会に参画しようとする態度を養う。
- ②主体的・協働的に自己の生き方を考えていく資質・能力を育成するため、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」のプロセスを明示し、探究的な学習活動を推進する。

- ③各教科・道徳科・特別活動・学校行事等と関連させたESDカレンダーをもとに、まちづくり、歴史・文化、自然・環境、ボランティアマインド、障害者理解、豊かな国際感覚についての学習に取り組ませるなどカリキュラム・マネジメントを行う。
- ④キャリア教育、情報教育等においては、体験的・問題解決的な学習活動の充実を図る。
- ⑤多様な人材の活用、一人1台端末や学校図書館等を有効活用した学習を推進する。

1年生は宿泊学習と都内への校外学習、2年生は職業体験学習及び番組制作体験の校外学習、3年生は修学旅行など、体験的な学習を軸に探求的な学習活動を実施した。一人1台タブレット端末の活用や新聞形式でのまとめなどを行った。カリキュラム・マネジメントについては、ESDカレンダーを一層意識して関連させていくことが必要である。次年度は、体験的な学習や害美人祭の積極的な活用を図り、さまざまな人と関わる中で学ぶ場面を多く作り、主体的・協働的に自己の生き方を考えていく資質・能力を育成する。

【生活指導・進路指導】

ア 生活指導

- ①生徒理解に努め、一人一人を大切にす。学習規律・挨拶・言葉遣い・時間を守る・清掃活動などの指導を全校の共通理解のもとに展開し、規範意識の醸成や基本的な生活習慣の確立など、健全育成を推進する。
- ②「学校いじめ防止基本方針」及び「いじめ対応マニュアル」の共通理解、いじめ対策委員会を中心とした迅速で組織的に対応することができる体制を構築する。また、人権教育、SOSの出し方に関する教育、自尊感情・自己肯定感の醸成を通して、いじめの未然防止と早期発見・解決、いじめを絶対に許さない学校づくりを推進する。
- ③避難訓練及び引き取り訓練、安全指導の充実を図り、情報を正しく判断し、自らの安全を守るために主体的に行動する力や、他者や地域に貢献する態度の育成を図る。
- ④家庭や外部機関等と連携し、『SNS東京ノート』や「SNS五中ルール」を活用した指導を通して、情報モラル教育を充実させる。また、不審者対応・万引き防止・交通安全・薬物乱用防止など、様々な安全教育を推進し、複雑化・多様化する問題の未然防止・早期解決を図る。
- ⑤不登校の未然防止及び早期解決に向け、家庭・小学校・地域・関係諸機関との情報共有に基づき、系統的・継続的な情報及び行動連携を図る。また、スクールカウンセラーや家庭と子供の支援員と連携した教育相談機能の整備・充実、居場所づくりとしての別室対応の整備、一人1台端末を活用したつながりを通して、個に応じたきめ細やかで組織的な支援体制の構築を図る。
- ⑥部活動の教育的な意義に基づき、豊かな人間形成の機会として指導する。また、「府中市立中学校運動部活動の方針」に基づく効果的かつ効率的な部活動の運営に努める。
- ⑦食物アレルギー対応委員会を中心とし、学校におけるアレルギー疾患対策を推進する。情報の共有及び組織的な対応の仕組みを整備し、疾患予防体制の確立と迅速かつ適切な緊急対応の徹底を図る。
- ⑧家庭・地域の理解を得ながら、生徒が性に関する正しい知識を身に付け、適切な意思決定や行動選択ができるよう、多様な性に関する教育に取り組む。

生徒の主体性を育みながら、一人ひとりを大切に、認め励ます指導を推進し、規範意識の醸成を図ることができた。いじめ対応については、未然防止、早期対応に重点を置き、迅速に対応することができた。学校評価「いじめや暴力のない学校にするよう意識していますか」の肯定的評価 生徒94.9%、教員95.2%と意識の醸成も図ることができている。不登校生徒については、年間を通じて別室(次年度の名称はサポートルーム)の経営を行う中で、改善が図られている生徒も出てきた。生徒の状況に応じて、家庭支援も視野に入れた外部との連携を今後も継続していく。部活動については、ガイドラインに従い実施できた。今後は、地域移行を視野に外部指導員の確保を地域と

連携を図って行っていく。食物アレルギーについては、家庭と丁寧なやりとり及び府教研中学校養護教諭部会が作成したアレルギー対応カードを活用した研修を行った。今後は学期に1回の実施を行い、教員の対応力の向上を図る。多様な性については、小中連携の日に東京都中学校性教育研究会会長の郡校長先生を講師として、教員の研修を行った。教員の理解・実践は促進され、男女混合名簿の導入、単元に応じた保健体育の男女共習等土台作りはできていると感じる。今後も保護者・関係機関等都連携を図りながら心の育成を図っていく。

イ 進路指導

- ①生徒が将来の生き方について主体的に考え、行動する態度や能力の育成を推進する。
- ②キャリア教育の視点に立ったガイダンス機能を充実させ、適切な情報提供や各種の援助を通して、生徒一人一人の自己実現を支援する。
- ③「生き方」を学ぶ機会として、体験的な学習、道徳科の授業や読書活動、職業に関する学習など、進路に関する学習との有機的な関連を図る。
- ④学校の教育活動全体を通して、広い視野と将来に対する目的意識をもち、自信をもって自己の適性に合った進路を選択することができる資質や能力を育成する。

地域の教育機関と連携した第2学年での職業訓練学習は生徒の「生き方」を学ぶ上でとても有意義であった。ガイダンス機能については、校内で完結することなく外部人材の活用を図ってより充実させいく必要がある。次年度はより多くのゲストティーチャーを招いてさまざまな人と関わる中で、自身の進路を主体的に考える力、それを実現させるための主体的な行動を育む活動を充実させる。

【特別支援教育】

- ①教育環境に関するユニバーサルデザインの視点に立った取組や交流及び共同学習の推進を図り、在籍する生徒一人一人に自立し、他者と共に生きる力を身に付けさせることを通して、全ての子供たちが学ぶ喜びを味わうことができる学校を目指す。
- ②「特別支援教室ガイドライン」に基づき、拠点校として特別支援教室の運営にあたる。
- ③特別支援教育コーディネーターを中心とする校内委員会の充実を図り、担任等と専門員及び指導教員、巡回心理士との組織的な連携を推進する。
- ④個々の実態について共通理解を徹底する。小学校からの連続性のある学びと育ちの支援を通常の学級での支援にも生かしながら、生徒の将来につなげる。

校内研修会等を通じて特別支援教育の理解は推進することができた。特別支援教育拠点校としてもガイドラインに基づきながら担任及び巡回指導教員と連携を図りながら生徒一人ひとりの支援を行うことができた。週1回の特別支援教育校内委員会を通じて個々の共通理解は徹底できた。教育環境のユニバーサルデザイン化については学校全体でより一層推進していく必要がある。また、小学校との連携については年3回の小中連携の日以外にも情報共有等を行う機会を設け、中学校区全体で児童・生徒の学びと育ちの支援を一層推進していく。

【特別活動】

- ①全ての教育活動において「主体性」を意識した計画を行い、より良い学校づくりを生徒・教職員が「協働」で行い、学校づくりを「創造」させる活動を推進する。
- ②集団への所属感や連帯感を深めるとともに、望ましい人間関係の形成や社会への参画に主体的・実践的に取り組む態度を育てる。また、集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせな

から合意形成を図り、互いのよさを発揮することを通して集団や自己の課題を解決することができ資質・能力を育成する。

- ③各教科・道徳科・総合的な学習の時間との関連を重視し、新しい生活様式を踏まえた学級活動・生徒会活動・学校行事の充実を図る。
- ④生徒会が主体となって取り組むFCGs(府中五中版SDGs)を通じて、持続可能な社会の担い手としての資質・能力を育成する。

行事や委員会活動等、生徒の主体性を育む取組を推進した。生徒の意見をカタチにできるよう教員とともに協働し、屋上庭園の開放等を実現した。教育委員会の方針に基づき新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、学級活動・生徒会活動・学校行事に充実を図ることができた。生徒会役員会を中心にSDGsの取組を一層推進することができた。この取組が各教科等との関連にも生かされている。今後は、学校の取組を家庭や地域での生活の中で生かせるようにしていく。

【学校運営】

- ①分掌・委員会の組織的な機能と活性化を図るため、教職員一人一人の役割と職責を明確にする。また、報告・連絡・相談・記録を確実に行う。
- ②PDCAサイクルに基づいた組織運営を図り、各教育活動(行事等)終了後1か月以内に反省アンケートを基にした会議を行い、成果と課題を明確にし、次年度につなげる。
- ③コミュニティ・スクールとしての運営を円滑に推進するため、学校運営協議会が主体となる組織作りを行い、地域の方々の学校運営への参画による学校教育の充実と地域の活性化を図る。
- ④小中連携・一貫教育により、第五中学校区で児童・生徒像を共有し、9年間の学びと育ちを推進する。
- ⑤OJTを推進し、若手教員の育成と組織力の向上を図る。OJT責任者と担当者を明確に示し、成果と課題を報告する。
- ⑥経営支援部を新設し、ICT教育の推進、地域連携や事務室・用務員との連携を推進して、組織コミュニケーションを高め、チームで働く力を高める。また、経営支援主任・事務・用務・管理職と週1回の経営支援会議を実施して施設や予算関係の課題解決を図る。
- ⑦学校経営支援員や副校長等校務改善支援員を活用し、副校長・教職員の校務改善を図る。
- ⑧教育公務員としてサービスの厳正をし、強い自覚に基づいて職務を遂行する。

報告・連絡・相談・記録及び情報の共有は概ねできていた。学校運営協議会で2つの分科会(学校支援部と学校防災部)を立ち上げた。学校支援部では地域や校内でのボランティア活動の積極的な推進と学習支援(地域未来塾)の実施、学校防災部では教職員による防災ツアーを実施した。小中連携では、3回の小中連携の日を通して課題を共有し、それぞれの学校での取組につなげることができた。OJTは日常的には行われたが、計画的には行うことができなかった。次年度は、ミニ研修会等を設定し意図的・計画的に実施していく。経営支援部を中心に、ICTの推進や事務室・用務員との連携を図りながら、よりよい学校運営を行うことができた。予算の執行についても、経営支援会議を毎週1回行うことで、執行状況の把握とより効果的な活用を図ることができた。また、副校長による家庭と子供の支援員や学校経営支援員の適正な配置や予算の有効活用を図り、別室(サポートルーム)の運営を充実させ、生徒の居場所づくりへとつなげたことは大きな成果であった。また、支援員の活用により教員の校務軽減にもつなげることができた。

【令和5年度 重点課題】

(1) 「確かな学力」・・・「疑問をもち、考え抜く力」の育成

- ① 言語活動の充実及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
※授業の振り返りを通じて、生徒の主体的に取り組む力を育む
- ② 主体的に取り組む力、思考力・判断力・表現力等を育成するため、ESD(SDGs)の視点を取り入れたカリキュラム・マネジメントの実施
- ③ 一人1台タブレット端末やICT等を効果的に活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」の推進

(2) 「豊かな心」・・・「思いやりのある心と行動力」の育成

- ① 自分のため、ほかの人のためにもなる行動がとれる自己指導能力を育む生徒指導の推進
- ② 豊かな心を育む道徳教育の充実と暴力やいじめを許さない人権尊重教育の推進
- ③ 人と関わる中で学ぶ体験活動やボランティア活動等の充実

(3) 「健やかな体」・・・「一歩前に踏み出し、粘り強く取り組める力」の育成

- ① 生徒が主体的に取り組む学校行事や委員会活動の企画と運営
- ② 基本的な生活習慣の確立と自分も周りも守る健康と安全についての理解と実践力
- ③ 一人ひとりを大切にする相談機能の充実と関係機関との連携の推進

(4) 「学校力」・・・「連携による学校力」の向上

- ① 育てたい児童・生徒像を具現化する小中連携の推進（情報連携から行動連携へ）
- ② コミュニティ・スクールの機能を生かした地域連携の推進
- ③ 特別支援教室拠点校として特別支援教育の一層の理解・推進

※全て生徒の安全・安心を第一に講じた企画・実施とする。